大館市政だより
第66号
（毎月一回発行）
発行所
大館市役所
秋田県大館市
編集兼発行人
竹内福哉
印刷所 県北新報社

郷土色豊かに秋田国体

市制十周年、復興にも終止符

市長　佐藤敬治

市民の皆さん、あけましておめでとうございます。

今年も皆さんに強い多い年であります ように心からお祈り申上げます。

○　○　○

年日のたつのも早いもので、わが大館も、この四月には市制施行満十周年を迎えるわけであります。

この間三度の大火に見舞われ市民の皆様と共に苦しくも永い歳月を送り迎えてまいりましたが〝厄いを転じて福〟のスローガンをかかげた、かつてない試練にも勝って、不死鳥都市大館の御殿も名実共に完成されようとしておりますことは、まことに御同慶に堪えません。

時あたかも秋田国体を迎え、この十月には当大館はもとより全県下にわたって〝興の祭典〟がくりひろげられるわけで、この意味からも九月までには是非とも災復興を完成し、遠来の客を迎えたいと存じております。

○　○　○

第十六回国民大育大会秋季大会、いわゆる秋田国体は全県下十八市町村を会場地として陸上競技をはじめ二十五種目に及ぶ各種競技の競うわけでありますが、当市においては、蹴鞠競技の三種目について行われることになっており、全国から約三千名の選手役員を迎えることになっております。

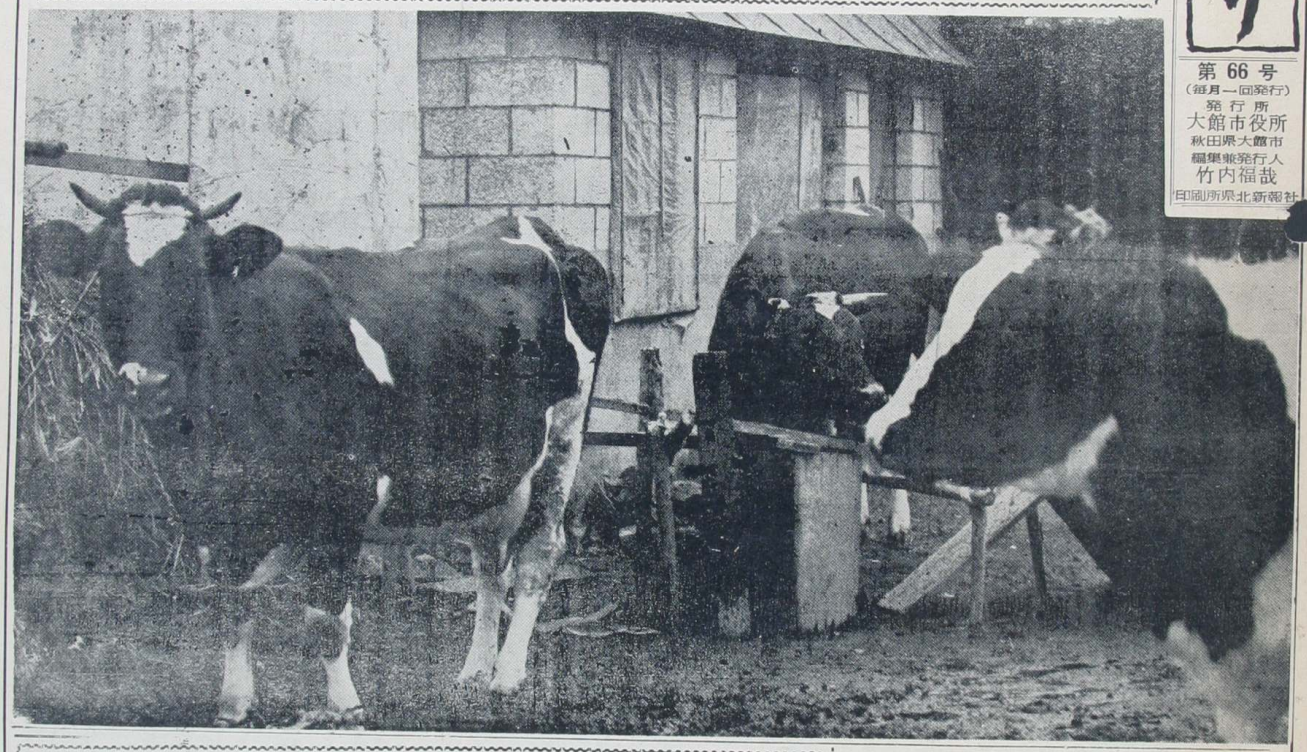
御承知のように、秋田国体は一億円国体を標榜しておりますので、静岡、富山、岡本国体のように豪華なものは期待できないと思いますが、しかし開催の基本方針にもあるように簡素ながらも郷土色豊かに秋田国体の興をあげることが大切であると思います。

秋田人、殊に大館人のもつ心の朗かさ、誠実さをもって歓迎するとき、必ずや遠来の客人に深い感動もって印象づけることができると思います。秋田国体を成功裡に、そしてまた秋田の、大館の郷土色が全国三千人の選手役員にとって印象深いものにすると同時に、全国に、その長さを紹介する絶好の機を市民があげて大成させようではありませんか。

○　○　○

財政の再建団体として、市民の皆様には何かと不自由をおかけしている面もあるとは思いますが、市の財政も順調に軌道に乗りつつあり諸施設など大きな事業は殆んど完成をみておりますので、これからの大館は内容を充実し名実共に発展させたいと存じております。

〝石の上にも三年〟という諺がありますが、市政施行十年という祝年をむかえて、新春の陽光が一入輝きを増し感を禁じ得ません。この良き年の新春を皆さんと共に寿ぎ、明日への英気を養いたいと存じます。どうぞ本年も倍旧の御指導と御協力を御願い申上げ年頭の御あいさつにかえます。



今年はウシ年、モー君の当り年とあって酪農家や関係者のハリキリも一入。

米代中流集約酪農地域として指定を受けているわけが大館は大いに力コブをいれている。

現在約三百頭の乳牛が飼育されているが、三十七年度までには約五百七十頭にしようというのがその目標。

米飯一辺倒の食生活は高血圧のモト、動物性タンパクを多く摂取して健康を増進しようというのが、そもそものねらい。

飼料、乳価、病気など酪農家にも頭の痛い問題もあるようだが生産性を高めるためには飼料の自給が先決とあって集約牧野など草地改良に本腰。十アール当約一、三〇〇キログラム（三五〇貫）の自然草地を改良して約三、七〇〇キログラム（一千貫）以上の良質飼料を確保しようというもので、現在十ケ所六十ヘクタールが造成されている。

酪農の振興がもたらした乳製品の消費量は戦前の六・七倍とか、国民体位の向上も見逃せない事実。一面酪農経営は多頭飼育が必要とあって、補助金づきで奨励に努めている。

農新、肥育のための役肉牛も現在約四百頭、十年前の四倍を越す躍進ぶりとなっている。

ともあれ今年はモー君の当り年、庭先に出たモー君の鼻息が荒い。（写真は板沢富郎宅庭先でのホルスタイン種）

最大多数の最大幸福を

市政の内容充実が課題

議長　渡部綱次

あけましておめでとうございます

ことしで戦後十年目、市制を施行いたしましてから、この四月でまる十年になります。

この間、数度の災害にあいましたが、なんとか切り抜け、また、新しい町づくりもどうにか形がととのいました。

さて、ことしは、市になりまして十年のあゆみを、もう一度ふりかえって、じっくりと見つめ、行政の長、短所をよく心にとどめ、行財政の内容の充実につとめていきたいものと考えています。

例えば、残っている大きな問題の火災復興の早期完成、赤字財政の積極的解消には特に力をそそぎ、これらと平行してくる福祉増進の諸問題等につきましても、形式におちいることなく結実主義で処していきたいと存じています。

イギリスの社会主義者オーウェンがのこした言葉に〝政治の目的は、統治される者と、統治される者との最大幸福を、現実につくり出すものが最善のものである〟と。こういうのがあります。

見かけはよくとも、中味が貧しくては決して幸福であるとはいえません。表裏一体をなさせるということが、これからの市政に与えられた最大の仕事であると、私はそう思っています。

やむを得ないという言葉で、シブシブ納得するとさる時代はもうすぎた。これからの市政というものは、すべてがすっきりした雰囲気に終始し、地方自治の目的である。民主的にして能率的な行政の確保をはかり、市の健全な発達に、持っている能力の全部をかたむけていかなければならないし、そうあるべきと信じています。

皆様の御多幸を祈ってやみません。

謹賀新年

大館市議会

議長　渡部綱次
副議長　小坂元治
議員　石川芳男
成田松蔵
菅原勇治
越山米太郎
菅原一雄
武茂信雄
嶋崎泰光
田中昌
畠山俊夫
高松善治郎
佐藤省一
奈良勉
菊地忠吉
石田徳太郎
石田豊治
釜谷義雄
奈良友二
三浦要太郎
築館米三郎
伊藤市五郎
斎藤芳二
石戸谷錦吉
小畑勇吉
藤島米太郎
村井信一郎
太田部武蔵
浪岡善之助
佐々木正治
柳館邦男
桜庭重蔵
八神錦三
桜庭末吉
佐藤民二郎
鎌田勝郎

議会事務局長